

手作り(みんなよく)が並ぶ

稲生の朝市10周年



昔は一輪車、今は軽四トラックがお店になっている

地域に愛されて十年。新鮮野菜や果物などが並ぶ『稲生の朝市』が十周年を迎え三月二日、盛大に記念セールが開かれました。昭和五十一年三月に、市農協稲生婦人部の手で産声を上げたこの市は、毎月第一・第三日曜日に開かれています。当初は六時の開店でしたが、現在は七時から八時まで。婦人部が年一度、農産物のチャリティーセールをしていたのがきっかけで、定期的に開いては、この朝市になりました。当時の婦人部長だった橋詰妙子さんは、市があることに宣伝カーを走らせPRに努めたとのこと。

商品は、キュウリ、キャベツ、ブロッコリーなどの野菜や手作りみそ、こんにやく、漬物、おもち、お寿司、赤飯、干物、花などで、作る人たちのめくもりが伝わってくるようなものがいっぱいです。この日は十周年ということで、地区の老人会、体育会、若妻会、子供会なども協力。小久保公民館には、子供たちの楽しい絵や婦人会の手芸、生け花クラブなどの作品も展示。また、チャリティーショーも開かれ、収益金は社会福祉協議会などへ寄付されます。婦人部長の久万和枝さんは「市を通して地域の輪も広がったと思う。これからも長く続けていきたい」と、話していました。

10周年を記念し催しもいっぱい



就職生を激励○○○

中卒生28人が実社会へ

出会い、そして別れの季節。この春、実社会へ巣立つ中卒生を励まし祝福する「就職生を励ます会」が三月三日、中学生二十四人、校長先生や担任の先生など関係者が集まり市役所大会議室で開かれました。

今年、市内四中学校から二十八人(うち女子九人)が実社会へ巣立ち、県外への就職者は三人となっています。会では、市進路指導研究協議会長の耕崎隆香長中校長が「自分の選んだ仕事に精進してください」と激励。小笠原

市長、田内修治教育副委員長が「仕事や勉強に耐えられるよう健康に留意を」「強い意志で目標に向かって努力してください」と、それぞれ言葉を贈りました。続いて鈴江教育長から、一人一人に記念品が手渡された後、就職生を代表して為ヶ池中の竹田洋子さんが「早く実社会へ出ますが、みんなの分まで頑張ります」と、決意を述べました。実社会ではつらいこともありませんが、先生方の教えを思い出して頑張ってください。

教育長が一人一人に記念品を手渡した

